

学 生 募 集 要 項

神学研究科神学専攻

博士後期課程

2027年度



TCU | 東京基督教大学大学院

東京基督教大学 アドミッションセンター 大学院入試担当

住 所:270-1347 千葉県印西市内野3-301-5

Webサイト:<https://www.tci.ac.jp/>

電話番号:0476-46-1131

E mail:graduate-school@tci.ac.jp

対応時間:9:00~16:45(月曜日~金曜日) ※昼休み11:20~11:50を除く

【出願に際しての個人情報の取扱い】

出願書類等に記載された氏名、住所その他の個人情報は選抜の実施、合否発表、入学手続き、奨学金業務、統計・分析、入学後教育指導上必要とされる範囲、またこれらに付随する事項を行うために適正な範囲で利用し、その目的以外には利用しない。

目 次

	ページ
I 本学信仰基準と建学の精神	
1 信仰基準 -----	1
2 建学の精神 -----	2
II 大学院(神学研究科神学専攻)について	
1 大学院の目的 -----	2
2 大学院の構成 -----	2
III 博士後期課程について	
1 人材養成及び研究教育の目的 -----	3
2 カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針) -----	3
3 ディプロマポリシー(修了認定・学位授与に関する方針) -----	3
IV 入学試験について	
1 入学試験の流れ -----	4
2 アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針) -----	4
3 募集人員 -----	4
4 出願資格 -----	5
5 出願前相談 -----	5
6 選考日程等 -----	6
7 審査内容 -----	6
8 出願書類 -----	7
9 入学検定料 -----	8
10 出願書類提出方法 -----	8
11 不正行為への対応 -----	8
12 受験上の合理的配慮 -----	9
V 入学手続き等について	
1 合否発表 -----	9
2 入学手続き・辞退手続き -----	9
3 学生納付金(2027年度) -----	10
VI シラバスと科目担当教員一覧	
1 シラバス(2026年度) -----	11
2 科目担当教員一覧(2026年度) -----	15

交通案内と試験会場

[巻末挟み込み]

- ・ 出願書類(様式1～8)
- ・ 大封筒(出願書類提出用)

I 本学信仰基準と建学の精神

1 信仰基準

本学で基準とする信仰は、旧・新両約聖書に一貫して啓示され、古代公同信条に表明され、宗教改革において宣明された聖書的・歴史的・正統的信仰です。この信仰は、近代の自然主義的な啓蒙思想や自由主義神学の挑戦を受けながら、正統信仰の弁証と敬虔な信仰の実践とを目指す福音主義へと展開するにいたりました。その福音主義信仰を根本において支える個々の信仰箇条は以下の9箇条に述べるとおりです。

1. 66巻からなる聖書は、聖霊の完全な靈感によって、それぞれの著者を通して、記されたものです。したがって、聖書の記述には、誤りはありません。聖書は、神が救いについて人々に啓示しようとされたすべてのことを含み、信仰と生活との唯一、絶対の規範となるものです。
2. 生ける真の神は唯一で、永遠から永遠に、父・子・聖霊の三位であります。
3. 神は無から、目に見えるもの見えないものすべてを創造されました。すべての被造物は、神の絶対主権のもとにあります。
4. 人類の父祖アダムは、神のかたちにかたどって創造されました。アダムは、初め、神と正しい関係を保ちましたが、サタンの誘惑により、神のみこころに背いて罪を犯しました。その結果、罪の刑罰と腐敗をこうむって、霊的にも、肉体的にも死に服しました。ですから人間は、すべて罪の性質をもって生まれ、その思いとことばと行為において罪あるものです。
5. わたくしたちの主イエス・キリストは真の神であり、また真の人間であります。主は聖霊による身ごもりを経て、処女マリヤから生まれました。主は、世の罪のために十字架にかかり、死んで葬られ聖書に従って三日目によみがえりました。主は天に昇って神の右に座し、わたくしたちのために大祭司の務めを果たされます。
6. 主イエス・キリストの身代わりの死のおかげで、主を信じる者はみな、罪をゆるされて義と認められ、神の子とされて罪の支配から解放されます。これ以外に救いの道はありません
7. 聖霊は、罪ある者に、罪を認めさせて、信仰に導き、聖潔と奉仕の生活を送る力を与えて、キリストのかたちに似る者としてくださいます。
8. 教会はのかしらであるキリストのからだですから、聖霊によって新しく生まれた者は、みな教会の一員です。地上の教会はのかしらであるキリストにふさわしく信仰と純潔を保ち、またその命令に従って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなければなりません。
9. わたくしたちの主であり、また救い主であるキリストは、したしく肉体をもって再臨されます。義なる者も不義なる者も、それぞれ肉体をもってよみがえらせられ、永遠の祝福か、永遠の刑罰かのどちらかへ定められます。終わりに、主は、すべてのものを新たにして、み国を父なる神におわたしになります。

2 建学の精神

プロテスタント福音主義信仰に立ち、教派を超えて21世紀の教会と社会に奉仕する世界宣教の働き人を育成するために、実践的な神学教育を施す。

1. 福音主義

聖書を誤りのない神のことばと信じ、かつ信仰と生活の唯一の規範とする福音主義に立って、正統的な神学に基礎づけられた教職者および奉仕者を育成する。

2. 超教派

超教派の神学教育に実績を持つ東京キリスト教学園にあって、教派を超えて日本の内外の諸教会と社会に奉仕し、その発展に寄与できる人材を育成する。

3. 実践的神学教育

福音主義諸教会や諸団体の期待と要望に応えるために、実践的神学を深め、教会と社会に仕える姿勢、行動力や指導力を養い、福音を肌で感じさせる人材を育成する。

4. 世界宣教

宣教の主イエス・キリストの大命令に応じて、世界各国とりわけアジア諸国に、キリストのからだである教会を建て上げる働き人として、宣教師や奉仕者を送り出す。

II 大学院(神学研究科神学専攻)について

1 大学院の目的

本大学院は、本学の建学の精神に基づいて、教育基本法に則り、学校教育法の定めるところに従い、キリスト者である男女に、神学に関する学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、高度専門職業人である教会教職者(牧師・宣教師・伝道者・教会教育従事者・教会主事等)および神学研究者・教育者としての深い学識、卓越した能力および品格を培い、教会と社会の安寧と発展に寄与することを目的とする。

2 大学院の構成

神学研究科神学専攻

課程・コース	標準修業年限 ※1	学 位	指導言語
博士前期課程 ・教会教職コース ・研究教育コース	2年	修士(神学) Master of Arts in Theology	日本語
博士後期課程	3年	博士(神学) Doctor of Philosophy in Theological Studies	日本語、英語 ※2

※1 本神学研究科では、本学「大学院長期履修規程」に基づき許可された者が、標準修業年限を超えて一定期間にわたり計画的に教育課程を履修し、学位を取得できる制度がある。詳細はアドミッションセンター大学院入試担当まで問い合わせること。

※2 博士後期課程では、授業、論文指導は日本語または英語で行われる。日本語学修歴がなくとも、英語のみで修了することも可能。

Ⅲ 博士後期課程について

1 人材養成及び研究教育の目的

豊かな学識を養い、神学上の総合的な方法論を用いて高度で創造的な神学研究を行う。これにより、グローバル化し複雑化する教会と社会の神学上の諸課題について提言し、新しい未来の構築に貢献できる、本学や国内外の大学及び神学教育機関の神学研究者・教育者、教会・宣教団体・キリスト教NPO/NGO等の神学における高度な専門性と研究能力を持った指導者を養成することを目的とする。

2 カリキュラムポリシー(教育課程編成・実施の方針)

博士前期課程における教育研究を土台にして、より高度な研究指導を行う。また、他の研究者たちとの議論や協働をとって問題解決を探る能力、及び論理的説明能力の涵養に留意する。

3 ディプロマポリシー(修了認定・学位授与に関する方針)

博士前期課程において求められる能力に加え、以下に掲げる能力及び専門知識と研究能力を身につけ、3年の在学と所定の14単位以上を履修し、博士論文の審査及び最終試験に合格した者に、「博士(神学)」の学位を授与する。

- a. 神学の総合的で深い理解の上に立ち、高度で創造的な研究を行う能力を博士論文において実証し、かつ他者との協働をとってその研究能力を発揮できる能力。

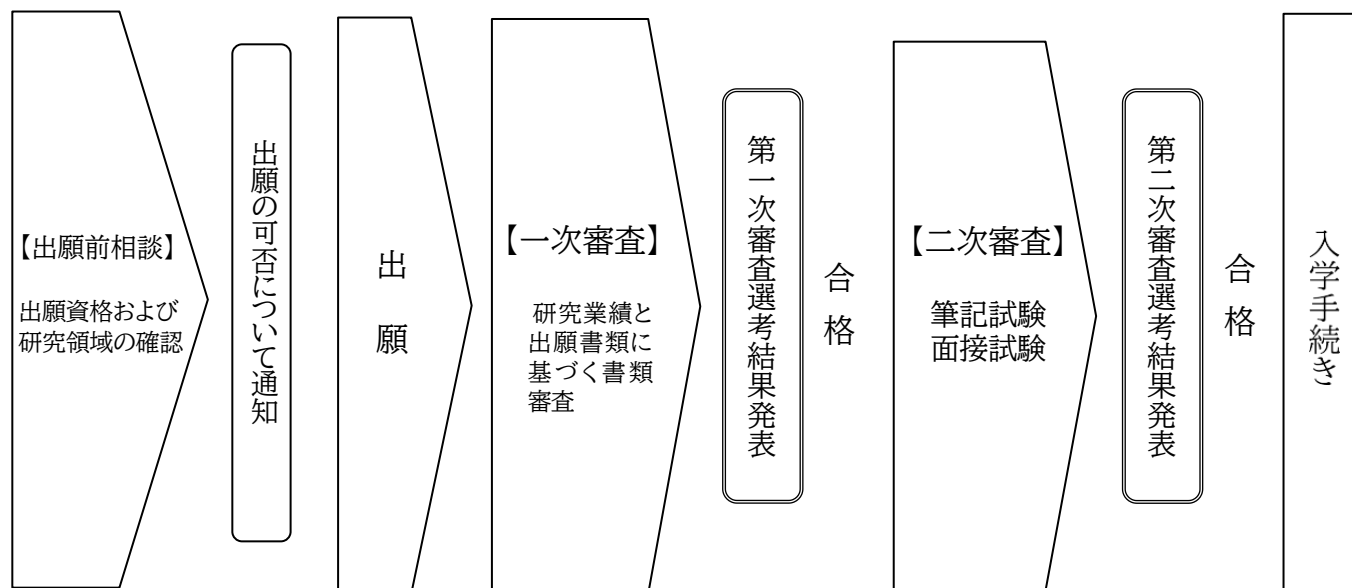
	基礎領域	専門領域
科目名	「神学特論」	「研究指導」
単位数	2単位	12単位

[博士前期課程において求められる能力]

- a. 今日の教会と世界が直面する神学的諸課題について、旧約・新約聖書の原語による解釈とそこから導き出せる原則に基づき、キリスト教の豊かな伝統と今日の状況に照らして分析・統合し、現代に対して意味のある神学を創造的に営む能力。
- b. 自らの知見を、他者に説得力をもって伝達するための論理構築をし、表現する能力。
- c. 現代の教会と社会において直面する多様な事態に、高い倫理性と品格をもって取組み、問題解決のために提言するだけでなく、他者を理解し協働する能力。

IV 入学試験について

1 入学試験の流れ



2 アドミッションポリシー(入学者受け入れ方針)

キリストへの信仰を表明し、かつ、本神学研究科博士前期課程の修了者、他大学の同等の課程の修了者、及びそれと同等の学力があると研究科委員会が認めた者のうちで、極めて優れた学力があると認められる者。

3 募集人員

入学時期	募集人数
2027年4月	2名
2027年8月	

4 出願資格

キリストへの信仰を表明する者で、博士後期課程レベルの学修・研究をする日本語能力または英語能力を有し、次の各号のいずれかに該当する者とする。

ただし、2027年8月入学希望者は1.～8.において、2027年3月を2027年7月と読み替えるものとする。

1. 修士の学位又は専門職学位を有する者、および2027年3月までに授与される見込みの者。
2. 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、および2027年3月までに授与される見込みの者。
3. 外国の学校が行う通信教育における授業科目を日本において履修し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、および2027年3月までに授与される見込みの者。
4. 日本において、外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者、および2027年3月までに授与される見込みの者。
5. 国際連合大学の課程を修了し、修士の学位に相当する学位を授与された者、および2027年3月までに授与される見込みの者。
6. 外国の学校、第4号の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し、大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し、修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者。
7. 文部科学大臣の指定した者。
8. 本大学院において、個別の入学資格審査により、修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で、2027年3月31日までに24歳に達する者。

5 出願前相談

受験希望者は本学において希望する研究を充分に行なうことができるか確認するため、出願前にアドミッションセンターへ以下を郵送すること。書類確認後、本学から受験希望者に連絡をする。書類の受付締切は、それぞれの試験の出願開始の概ね1ヶ月前までとする。

書類提出先は、8ページの10「出願書類提出方法」参照。

提出物	備考
1 出願前相談申込書(様式5)	申込書に研究テーマを添付して提出(1,200-2,400字・A4サイズ)
2 修了(見込)校の成績証明書	神学専門教育を修了した(または見込みの)学校のもの。
3 修了(見込)証明書	神学専門教育を修了した(または見込みの)学校のもの。 ※成績証明書に卒業年月日、取得学位が明記されている場合は不要
4 修士の学位論文とその要旨	以下はA4の用紙サイズでそれぞれ1通提出する。
①日本語又は英語で執筆した場合	・修士論文の写し ・その要旨(和文2,000字程度、英文1,500語程度。)
②日本語・英語以外の言語で執筆した場合	・オリジナル言語の論文の写し ・その要旨(論文の内容を理解するのに十分な分量。日本語又は英語。)
③修士論文作成中の場合	・「研究経過報告書」(様式6) ・卒業論文の写し、または修士(博士前期)課程で作成したレポート(1本)の写し(日本語又は英語)
④修士論文がない場合	・修士論文に代わる「学術論文」(1本)の写し(公表されたもの。) ・その要旨(和文2,000字程度、英文1,500語程度。)

6 選考日程等

入試区分	11月入試	1月入試
入学時期	2027年4月又は8月	2027年4月又は8月
出願前相談受付	出願受付開始の概ね1ヶ月前まで	
願書受付期間	2026年9月29日(火) - 10月7日(水)必着	2026年11月16日(月) - 11月24日(火) 必着
一次審査結果発表	2026年10月23日(金)	2027年1月8日(金)
二次審査日	2026年11月19日(木)	2027年1月29日(金) 又は 30日(土)
合格発表日	2026年11月26日(木)	2027年2月12日(金)
入学手続き締切日	2026年12月14日(月) 必着	2027年3月1日(月) 必着

- 注) 1. 入学時期は出願時に選択する。
 2. 一次審査結果発表日に、Eメールで二次審査のスケジュールを通知する。
 3. 1月入試の二次審査については、受験者数に応じていずれかの日で実施する。日程は個別に通知する。
 4. 4月入学希望者のうち、外国籍で海外に在住しており本学合格後に在留資格「留学」を申請する受験者は、在留資格認定証交付申請が必要となる。手続きには時間がかかるため、11月入試を受験すること。

(振替試験・追試験)

学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症の罹患等により、二次審査の試験日に受験できず、当該試験前日までに振替受験または追試験を希望し許可された場合、11月入試受験者は1月入試日程で振替試験を、1月入試受験者は2027年2月22日(月)に追試験を受けることができる。振替試験、追試験の入学検定料は別に徴収しない。

7 審査内容

- 1) 一次審査
研究業績(修士論文又はそれに相当する論文を含む)、出願書類(研究業績に基づく博士後期課程における研究計画を含む)に基づき、書類審査を実施する。
- 2) 二次審査
一次審査合格者に対して、以下の審査を実施する。試験方法は出願時に選択する。

対面方式

内 容	時間
英語(筆記試験)	70分
面接	60分

オンライン方式

内 容	時間
英語(口頭試問)	70分
面接	60分

※ オンライン方式を希望する場合は「オンライン受験に関する同意書」(様式7)を提出すること。

- ・ 面接は日本時間(GMT +9:00)の午前9時から午後6時の間に行われる。
- ・ 出願者の責任において、良好なインターネット接続環境(音声や映像が鮮明であること)を確保すること。出願者のインターネット環境やコンピュータの問題により、音声や映像の質が低い場合、審査が中止されることがある。

※ 以下のa)またはb)を満たした者は英語の試験を免除する。

- a) 以下のスコア取得者。スコアは試験日より起算して2年以内を有効とする。
免除希望者は願書受付締切日までに、各試験実施機関から直接本学ヘテスト結果が送付されるよう手配する。
 - ・ 日本語で博士論文を執筆する場合: TOEFL iBT90以上(2026/1/20以前実施)、4.5以上(2026/1/21以後実施)
IELTS Academic 6.5以上
 - ・ 英語で博士論文を執筆する場合: TOEFL iBT100以上(2026/1/20以前実施)、5以上(2026/1/21以後実施)
IELTS Academic 7.0以上

※ TOEFLの本学Institution(DI)コード: 8472

- b) 大学院博士前期(修士)課程以上において、英語で教育課程を修了(または修了予定)の者。

8 出願書類

No.	提出物	巻末様式	提出	注 意
1	受験票、入学志願票	1	○	志願票に写真貼付。(C、Dを提出)
2	履歴書	2	○	写真貼付。
3	救いの証し・出願理由		○	A4用紙に2枚(2,000字)程度。 本学の信仰基準についての意見、教会における奉仕についての記述を含む。
4	所属教会牧師等推薦書	3	○	厳封。英文可(英文の推薦書用紙が必要な場合、アドミッションセンターまで連絡のこと)。 推薦者がアドミッションセンターへ直接提出する場合は、メールまたは郵送による提出を受け付ける。
5	アカデミック・レファレンス		○	修士論文指導教員又はそれに相当する者に依頼する。 様式自由。厳封。英文可。 推薦者がアドミッションセンターへ直接提出する場合は、メールまたは郵送による提出を受け付ける。
6	成績証明書		○	出願前相談で提出していない、学部及び博士前期(修士)課程のもの。 発行機関が直接アドミッションセンターに送付する場合のみ、メール提出を受け付ける。
7	卒業、修了(見込)証明書		○	出願前相談で提出していない、学部及び博士前期(修士)課程のもの。 成績証明書に卒業年月日、取得学位が明記されている場合は、卒業(修了)証明書は不要。 発行機関が直接アドミッションセンターに送付する場合のみ、メール提出を受け付ける。
8	博士論文 研究計画書	4	○	11～15ページ「VI シラバスと科目担当教員一覧」参照。
9	英語能力試験の結果通知書		希望者	英語の試験免除希望者は、試験機関から直接本学へ送付されるよう手配する。 TOEFLの本学DIコード:8472 IELTS:送付方法は追跡可能郵便または電子送信システムのいずれか。本学住所、担当部署、メールアドレス等に関しては、8ページ「10 出願書類提出方法」を参照。
10	日本語能力試験の成績に関する証明書		該当者	日本語を母語としない者のうち、日本語で博士論文を執筆予定で在留資格「留学」を申請する場合は、以下のいずれかの証明書を提出する。 ・日本語能力試験(JLPT) N1レベル ・日本留学試験[日本語]「読解、聴解・聴読解」で280点以上かつ「記述」で35点以上 大学院博士前期(修士)課程以上において、日本語で教育課程を修了(または修了予定)の者は提出不要。
11	オンライン受験に関する同意書	7	該当者	オンライン方式試験を希望する者は署名し提出する。 合わせて、アドミッションセンターへ、オンライン方式で受験する旨をメールで連絡する(連絡方法は様式7の裏面参照)。
12	合理的配慮申請書	8	該当者	身体等に障がいがあり、受験に際して特別の配慮を必要とする場合に提出 9ページ「12 受験上の合理的配慮」参照 内容は入試判定とは無関係で、受験上の配慮に関すること以外に使用されない。
13	パスポートおよび在留カードのコピー		外国籍者	パスポート:氏名欄等掲載ページのコピー 在留カード(日本在住者のみ):カード両面のコピー

注) 様式の指定のない出願書類は受験生が各自用意すること。提出された出願書類は返却しない。

9 入学検定料

- ・ 検定料(35,000円)は出願書類を提出する以前に、出願書類の様式1「振込依頼書」で銀行にて振り込むこと。
- ・ 振込みが確認できない場合は受験できない。
- ・ 振込金受領書(ATMの送金明細書等)は検定料の入金を証明するものなので、大切に保管すること。
- ・ 一度納入された検定料は返還しない。
- ・ 海外から出願する場合、クレジットカード支払いが可能。詳細はアドミッションセンターに問合せること。

災害救助法適用地域で被災された方へ

申請条件を満たした被災者は入試における入学検定料の免除申請が可能です。申請条件および申請方法等の詳細は本学ウェブサイトをご参照下さい。

(本学ウェブサイトトップページ ➡ 入学案内 ➡ 入試案内 ➡ 大規模災害罹災に伴う入学検定料の免除について)

10 出願書類提出方法

出願書類は、以下のいずれかの方法で受け付ける。出願期間内に本学へ到着するよう手配すること。

メール提出の場合

- ・ graduate-school@tcu.ac.jp宛に出願書類を添付して送付する。
- ・ 件名:「東京基督教大学大学院 博士後期課程 出願書類(氏名)」
- ・ ファイル形式:PDFファイル
- ・ 推薦書および成績証明書・卒業(見込み)証明書については、推薦者または発行機関がアドミッションセンターへ直接提出する場合に限り、メールによる提出を認める。

郵送提出の場合

- ・ 巻末の大封筒(出願書類用)を使用し、以下の住所へ簡易書留等の配達状況が確認できる方法で郵送すること。
- ・ 推薦書および成績証明書・卒業(見込み)証明書については、推薦者または発行機関がアドミッションセンターへ直接送付されたものも受け付ける。

東京基督教大学 アドミッションセンター 大学院入試担当
〒270-1347 千葉県印西市内野三丁目301-5-1

大学窓口提出の場合 出願期間の窓口対応時間内に受け付ける。

- ・ 月曜日～金曜日、午前9時～午前11時50分、午前12時50分～午後4時45分

11 不正行為への対応

以下のような行為を不正行為とみなす。 ※オンライン方式での試験を含む。

- ・ 出願書類において虚偽の記載、偽造、剽窃をすること。
- ・ 試験時間中に、カンニングすること(カンニングペーパーの使用、他受験者の答案等を見ること、第三者から答えを教わる等を含む)。
- ・ 試験時間中に答えを教えるなど、他の受験者を利するような行為を行うこと。
- ・ 試験時間中に、携帯電話等の音を鳴らすこと。
- ・ 試験の際に認められていない用具を使用すること。(机上に置くこと、身に着けることを含む。)
- ・ 試験場において、他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- ・ 試験期間中に、試験官等の指示に従わないこと。
- ・ 志願者以外の者が、志願者本人になりすまして試験を受けること。
- ・ この他、試験の公平性を損なう行為をすること。

不正行為のあった者には、ただちに試験の中止を命じ、既に受験した試験を無効とし、以後に実施される今年度の入学試験の受験を認めない。また、警察に被害届を出す場合がある。受験後に不正行為があったことを示す明確な証拠が出てきた場合、合格後及び入学後においても遡って入学を取り消すことがある。

12 受験上の合理的配慮

障がいにより受験上の合理的配慮を希望する受験生は、以下の手順に従って申請すること。

〔申請に必要な書類〕

- (1) 合理的配慮申請書(様式8)
- (2) 診断書または障害者手帳のコピー
 - ・ 発達障がいまたは精神障がいの場合、診断書の提出が必須。
 - ・ 身体障がいの場合でも、障害者手帳の記載内容のみでは状況が十分に把握できない場合は、新たに診断書の提出を求めることがある。

(診断書の要件:書式自由)

- ・ 申請時から3か月以内に発行されたもの
- ・ 診断名・症状等が具体的に記載されているもの
- ・ 希望する配慮内容すべてにおいて、その必要性が明記されているもの

〔配慮事項の通知〕

- ・ 提出された申請書類に基づき、本学で配慮事項を検討し、個別に通知する。なお、申請されたすべての配慮内容に対応できるとは限らない。
- ・ 受験または配慮申請を取りやめる場合は、速やかにアドミッションセンターまで連絡すること。

V 入学手続き等について

1 合否発表

各試験の合格発表日に、合否結果を受験者全員へ通知する。国内在住者には郵送し、海外在住者にはメールにて通知する。合否について、電話・メール・窓口での問合せには応じない。合否発表日から数日経過しても通知が届かない場合は、アドミッションセンターまで問い合わせること。

なお、受験者の便宜を考慮し、補助的な手段として合格発表日午前10時より本学Webサイトに、合格者の受験番号を掲載するが、必ず大学から発送される通知で確認すること。

合否発表Webサイト https://www.tci.ac.jp/future_student/exam/happyo.html



2 入学手続き・辞退手続き

合格者は、入学手続き締切日までに学生納付金を納入し、所定の書類を提出すること。詳細は合格通知書類とともに通知する。締切日までに手続きを完了しない場合は、入学できない。やむを得ない事情により入学手続き締切日までに学生納付金を納入できない場合は、延納することが可能。事前にアドミッションセンターまで問い合わせること。

入学手続き完了後に本学への入学を辞退する場合、4月入学は2027年3月31日(水)までに、8月入学は2027年7月31日(土)までに申し出があれば、入学金を除いた納付金を返還する。

3 学生納付金(2027年度) 単位:円

入学手続締切日までに授業料等の「初年度納付額」または「入学手続時最小納付額」のいずれか(一般:小計①または 内部進学:小計②)を納入する。

【授業料等】

一般	初年度納付額	入学手続時 最少納付額	内部進学	初年度納付額	入学手続時 最少納付額
入 学 金	130,000	130,000	入 学 金	30,000	30,000
授 業 料	645,000	215,000	授 業 料	645,000	215,000
施 設 費	300,000	100,000	施 設 費	300,000	100,000
教育充実費	10,000	10,000	教育充実費	10,000	10,000
一般 小計①	1,085,000	455,000	内部進学 小計②	985,000	355,000

【寮費等】

	初年度納付額				入学手続時 最少納付額
	独身寮	家族寮A (44㎡) 1S, 2DK, B, T	家族寮B (39㎡) 2DK, B, T	家族寮C (37㎡) 1S, 1DK, B, T	全寮共通
寮 費	300,000	300,000	300,000	300,000	212,000
家族寮加算分	-	315,000	255,000	210,000	
寮室電気料金	12,000	-	-	-	
食 費	300,000	-	-	-	
小計③	612,000	615,000	555,000	510,000	

【授業料等・寮費等 合計】

一般 ①+③	1,697,000	1,700,000	1,640,000	1,595,000	667,000
内部進学 ②+③	1,597,000	1,600,000	1,540,000	1,495,000	567,000

- 学納金は年度ごとに改定される場合がある。また食費は物価変動に応じて年度の途中で改定する場合がある。
- 学納金は年 3 回(入学手続時、Ⅱ期、Ⅲ期)に分けて納入することができる。Ⅱ期、Ⅲ期の納付期限および納付額についての詳細は入学後に別途通知する。
- 入寮を希望する場合、各寮の収容能力に余裕があれば入寮可能。

<独身寮生>

- 入学手続締切日までに「初年度納付額」または「入学手続時最小納付額」のいずれか(一般:小計①+③ または 内部進学:小計②+③)を納入する。
- 年間 10 カ月半の入寮。長期休暇中の滞在費は含まない。長期休暇中に在寮する際は特別滞在費を別途徴収する。
- 祝日を除く学期中の平日は、1 日 3 食提供。
- 光熱費(水道・ガス)を含む。電気代は過不足を計算し清算される。

<家族寮生>

- 入学手続締切日までに「入学手続時最小納付額」(一般:小計①+③ または 内部進学:小計②+③)を納入する。
- 可否発表時には部屋タイプが未定のため、家族寮費の年額ではなく、入学手続時納付額を徴収する。部屋タイプごとにⅡ期、Ⅲ期に家族寮加算分を徴収する。
- 家族寮費には長期休暇中の滞在費も含まれる。光熱費(電気・水道・ガス)および食費は含まれない。
- 退寮時の清掃費用として入学後に30,000円を徴収する。経年劣化以外の修繕が生じた分は別途費用を徴収する。
- 家族寮間取り S:スタディールーム、DK:ダイニングキッチン、B:風呂、T:トイレ

VI シラバスと科目担当教員一覧

1 シラバス(2026年度)

科目名「神学特論」

担当教員:岡村直樹(コーディネーター)、伊藤明生、David Sytsma

授業科目の概要:

本科目は、神学的課題について、神学上の総合的な観点から取り扱うための学術的方法論を、高いレベルで修得することを目的とします。博士論文の作成には、修士論文と比較し、より独自性と創造性のある内容が求められます。そのため資料収集、分析方法及び研究手段についても、更に高度な理解を求められます。

科目名「研究指導」

担当教員:伊藤明生、岡村直樹、David Sytsma、齋藤五十三、岩田三枝子、徐有珍、山口陽一

授業科目の概要:

伊藤明生 [指導言語] 日本語・英語

「聖書学」領域の、新約聖書学、聖書解釈学(聖書神学を含む)に関する研究について論文指導を行います。新約聖書の各書の歴史背景とテーマについて、ギリシア語本文に基づき、死海文書、フィロン、ヨセフス、外典偽典などの初期ユダヤ教文献やギリシア・ローマの哲学、修辞学などの諸文献と比較検討し、昨今の考古学上の研究成果を踏まえて、言語・文学・文化・宗教・社会・神学上の意味とその今日的意義を考察する学際的な研究を扱います。

岡村直樹 [指導言語] 日本語・英語

「神学・教会」領域の、実践神学、特に宗教教育学や宗教心理学の分野に関する研究について指導を行います。価値観の多様化に伴い、宗教のあり方にも変化が求められる現代社会にあって、いかにしてミニストリーの対象者を理解し、それを実践の現場に活かすことができるかといった課題は重要です。質的研究方法を活用した宗教心や宗教的ケアの調査、また教育対象者の主体性に焦点を当てた教育方法論や実践の検証等を行う研究を指導します。

David Sytsma [指導言語] 英語

「神学・教会」領域の、教会史、歴史神学に関する研究について指導を行います。2 世紀から現代までのキリスト教史の研究を扱います。学生は、ラテン語を含む原語の一次資料を、当時の社会的・知的文脈と照らし合わせながら研究します。学生は各自に関連性のある研究課題を追求しつつ、一次資料および適切な方法に基づいて課題を解決することを求められます。加えて、研究における客観性を高めつつ個々のバイアスを最小限に抑えるための方法論も学びます。

齋藤五十三 [指導言語] 日本語・英語

「神学・教会」領域の組織神学、信条学、教理史に関する研究指導を行います。組織神学に関しては教理体系中の特定領域における論点について、信条学に関しては主に宗教改革期の文書について、また教理史については教義学と教会史の学際的内容について論点を掘り下げて扱います。学生には、扱う領域における一次資料を読みこなす語学力が求められます。また研究における客観性担保のために、研究方法の指導を初期段階から行います。

岩田三枝子　〔指導言語〕日本語

「神学・教会」領域におけるキリスト教倫理学および女性学の研究指導を行います。特に女性学においては、大正から昭和期にかけての女性運動を主軸に据え、一次資料の精緻な読解を通じて、当時の社会構造や教会の立ち位置を多角的に分析します。単なる歴史事象の考証に留まらず、その知見が現代の社会や教会に対してどのような批評的意義を持ちうるのかという問いを、学生と共に探究していきます。

徐有珍　〔指導言語〕日本語

「神学・教会」領域の実践神学、特に宗教教育学およびユースミニストリーに関する研究について指導を行います。ナラティブ・ペダゴジーを用いた宗教教育実践、青年期における信仰形成、宗教者の価値観形成、宗教とジェンダー・LGBTQ+等の現代的課題について、当事者の経験や社会的文脈を丁寧に踏まえながら、現代社会における神学的・実践的展開の可能性を探究します。研究方法としては、主に質的研究法を用い、学修者や宗教者の語りと経験に即して行う研究を指導します。

山口陽一　〔指導言語〕日本語

「神学・教会」領域の日本キリスト教史に関する研究指導を行います。主としてプロテスタント史を中心に扱い、「日本的キリスト教」や天皇制など、「教会と国家」をめぐる諸課題について研究を深めます。また、日本の近代化とキリスト教との関わりについて、思想・文学・文化などの視点からも考察します。さらに、日本伝道史、地域社会とキリスト教、日韓教会史、説教をはじめとする実践神学に関する研究も指導対象とします。

授業テーマと内容(標準修業年限3年のモデル):

【4月入学:1年次春学期 / 8月入学:1年次秋学期】

第1回「オリエンテーション」「研究領域に関する検討①」

博士課程後期の研究指導の概要を確認する。研究領域に関する検討および「研究希望書」を作成に関する指導を行います。「博士論文指導チーム発足要請書」の作成に関する指導を行います。

第2回「研究領域に関する検討②」

論文テーマ決定のため、研究方法、文献検索の方法、および研究計画の立案の指導を行います。「仮研究計画書」作成の指導を行います。

第3回「研究領域に関する検討③」「関連文献・資料の検討①」

関連文献・資料の検討、研究方法、および「仮研究計画書」作成に関する指導を行います。1回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

【4月入学:1年次秋学期 / 8月入学:1年次冬学期】

第4回「研究領域に関する検討④」「関連文献・資料の検討②」

1回目の研究中間発表会で指摘された「仮研究計画書」の問題点等に関する指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

第5回「研究領域に関する検討⑤」「関連文献・資料の検討③」

1回目の研究中間発表会で指摘された「仮研究計画書」の問題点等に関する指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

第6回「研究領域に関する検討⑥」「関連文献・資料の検討④」

「研究計画書」作成の指導。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

第7回「研究領域に関する検討⑦」「関連文献・資料の検討⑤」

「研究計画書」作成の指導を行い、完成させます。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

【4月入学:1年次冬学期 / 8月入学:1年次春学期】

第8回「研究方法の指導①」「関連文献・資料の検討⑥」

研究科委員会に受理された「研究計画書」に基づき研究を開始するための指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。

第9回「研究方法の指導②」「関連文献・資料の検討⑦」

研究科委員会に受理された「研究計画書」の問題点等に関する指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。2回目の研究中間発表会に向けて指導を行います。

第10回「研究方法の指導③」「関連文献・資料の検討⑧」

研究科委員会に受理された「研究計画書」の問題点等に関する指導を行います。関連文献・資料の検討に関する指導を行います。「研究成果中間報告書①」提出に向けた指導を行います。

【4月入学:2年次春学期 / 8月入学:2年次秋学期】

第11回「研究方法の指導④」「文献精読①」

2回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。

第12回「研究方法の指導⑤」「文献精読②」

本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。

第13回「研究方法の指導⑥」「文献精読③」

本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。3回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

【4月入学:2年次秋学期 / 8月入学:2年次冬学期】

第14回「研究方法の指導⑦」「文献精読④」

3回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。「研究成果中間報告書②」提出に向けた指導を行います。

第15回「研究方法の指導⑧」「文献精読⑤」

3回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。本格的な研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。文献精読、調査等の指導を行います。

第16回「研究方法の指導⑨」「論文執筆指導①」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。

第17回「研究方法の指導⑩」「論文執筆指導②」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。

【4月入学:2年次冬学期 / 8月入学:2年次春学期】

第18回「研究方法の指導⑪」「論文執筆指導③」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。4回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

第19回「研究方法の指導⑫」「論文執筆指導④」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。4回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

第20回「研究方法の指導⑬」「論文執筆指導⑤」

研究資料の整理、および研究活動の遂行のための指導を行います。論文執筆の指導を行います。「研究成果中間報告書③」作成に向けた指導を行います。「博士論文提出願書」作成に向けた指導を行います。

【4月入学:3年次春学期 / 8月入学:3年次秋学期】

第21回「論文執筆指導⑥」

4回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。論文執筆の指導を行います。

第22回「論文執筆指導⑦」

4回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。論文執筆の指導を行います。

第23回「論文執筆指導⑧」

論文執筆の指導を行います。5回目の研究中間発表会に向けた指導を行います。

【4月入学:3年次秋学期 / 8月入学:3年次冬学期】

第24回「論文執筆指導⑨」

論文執筆の指導を行います。5回目の研究中間発表会で指摘された問題点等に関する指導を行います。

第25回「論文執筆指導⑩」

論文執筆の指導を行います。

第26回「論文執筆指導⑪」

論文提出に向けた指導を行います。

第27回「論文執筆指導⑫」

論文提出に向けた指導を行います。

【4月入学:3年次冬学期 / 8月入学:3年次春学期】

第28回「論文執筆指導⑬」「口頭試問指導①」

論文提出に向けた指導を行います。口頭試問に向けた指導を行います。

第29回「論文執筆指導⑭」「口頭試問指導②」

論文提出に向けた指導を行います。口頭試問に向けた指導を行います。

第30回「口頭試問指導③」

口頭試問に向けた指導を行います。

2 科目担当教員一覧(2026年度)

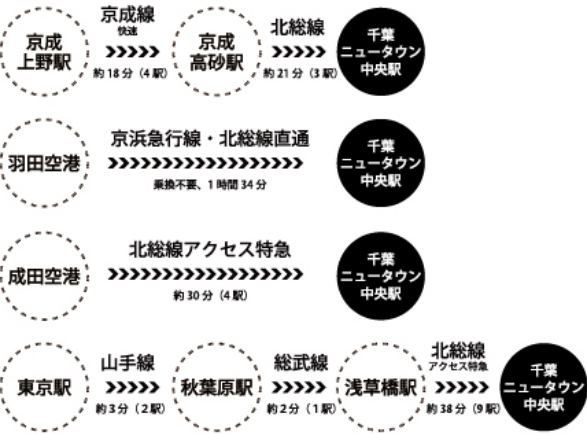
研究領域	教 員	担当科目
聖書学	伊藤 明生 (教授)	神学特論 ※
		研究指導(指導教員) (研究キーワード) 新約聖書と旧約聖書律法、新約聖書における旧約聖書からの引用、福音と律法、新約聖書写本、本文研究
神学・教会	岡村 直樹 (教授)	神学特論 ※
		研究指導(指導教員) (研究キーワード) 実践神学、宗教教育学、宗教心理学、宗教の質的研究、宗教の混合研究、宗教心の発達、宗教と教育方法論、宗教と心理的ケア、ユースミニストリー
	David Sytsma (准教授)	神学特論 ※
		研究指導(指導教員) (研究キーワード) 宗教改革、ポスト宗教改革、ピューリタニズム、啓蒙思想、聖書解釈史、倫理思想史
	齋藤 五十三 (教授)	研究指導(指導教員) (研究キーワード) 三位一体論、贖罪の歴史観、救済論、キリストとの結合、義認、神の子ども、聖化、神の家族、教会論、ハイデルベルク信仰問答
	岩田 三枝子 (教授)	研究指導(指導補助教員) (研究キーワード) キリスト教倫理、キリスト教と女性、大正期から昭和期の女性運動、賀川豊彦・賀川ハル
	徐 有珍 (教授)	研究指導(指導補助教員) (研究キーワード) 宗教教育学、キリスト教教育学、ナラティブ・ペダゴジー、宗教形成、青年期、ユースミニストリー、宗教とジェンダー、質的研究
	山口 陽一 (教授)	研究指導(指導補助教員) (研究キーワード) 日本キリスト教史、「日本的キリスト教」、天皇制、「教会と国家」、日本の近代化とキリスト教、柏木義円、日本伝道史、地域社会とキリスト教、日韓教会史、日本宣教・牧会に関わる実践神学

※オムニバス方式(複数教員で担当)

交通案内と試験会場

北総線

「千葉ニュータウン中央駅」下車
■南口バス乗り場 ちばレインボーバス高花行き
「電話局」下車 徒歩7分
■または駅から徒歩25分



東京基督教大学大学院 神学研究科

TOKYO CHRISTIAN UNIVERSITY GRADUATE SCHOOL

270-1347 千葉県印西市内野三丁目 301-5

TEL. 0476-46-1131 FAX 0476-46-1405 E-mail graduate-school@tci.ac.jp